『医学図書館』 収載記事の主題分析

城 山 泰 彦*

順天堂大学図書館

Kiyama Y.(Juntendo University Library. 2-2-26, Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113, Japan) : Subject Analysis of Igaku Toshokan's "Journal of the Japan Medical Library Association" Articles and Papers. *Igaku Toshokan* 1996 ; 43(1) : 99-105.

The purpose of this study is to investigate all articles and papers carried by the Igaku Toshokan "Journal of the Japan Medical Library Association". All articles and papers were classified according to a classification table, based on the major fields represented and by division into periods. The following results were obtained : 1) The numbers of pages, articles and papers have increased in recent years. 2) "Information Systems" field articles and papers have been relatively numerous in recent years.

I. はじめに

日本医学図書館協会の機関誌である『医学図書館』は、1954年に創刊されてから1995年で42年目を迎えた。この間に、時代を反映する私達に身近な情報や、我が国の医学図書館員の研究テーマの内容は、どのように変化してきたのだろうか。本研究では『医学図書館』に掲載された論文や全ての記事を分析して、医学図書館員の研究テーマの動向や、問題意識の経時的な流れをつかむことを目的とした。

II. 調査方法

本調査では『医学図書館』誌の創刊号(1954年)から第41巻4号(1994年)までを対象として、ページ数・全記事数・論文数を集計した。次に、日本図書館学会文献目録委員会編集の『図書館情報学文献目録分類表』第1版を用いて、4,285件の全ての記事・論文に、主題を1つだけ

付与する作業を行った。

表1は、『図書館情報学文献目録分類表』第1版の概要と、主な件名標目を示したものである。基本的に分類表どおりに使用しているが、本調査用に若干の変更を加えてある。

III. 結果と考察

1. ページ数

別冊や総索引を除く、本誌のみのページ数を算出した。41年間での合計は、12,056ページにもぼっている。『医学図書館』誌創刊号からの巻次毎のページ数の推移は、図1のようになっている。創刊号から第15巻まではA5判。第16巻以降はB4判と大型化し、現在に至っている。

ページ数の増減にはいくつかの波があるが、特に規則性はみられなかった。この図から、最近の数年間は誌面が特に増量されていることがわかる。

2. 全記事数

図2は、『医学図書館』に掲載された全ての記事4,285件の、掲載件数の巻次推移を表したものである。「全記事」とは、現在の誌面という広場

*Yasuhiko KIYAMA : 〒113 東京都文京区本郷2-2-26.

(1995年12月13日 受理)

表 1. 「図書館情報学文献目録分類表」概要と、主な件名標目

A: 図書館情報学	出版物, 学協会・会議, 研究・教育
B: 図書館・情報センター	医学・薬学図書館, 大学図書館, 情報センター
C: 政策・行財政	行政, 法規・基準, 図書館計画, 財政, 著作権, 標準化
D: 管理	人事管理, 図書館管理システム, 協力・ネットワーク
E: 建築	計画・設計, 設備, サイン計画
F: メディア・資料	逐次刊行物, DB, 目録, 索引, 書誌, 視聴覚, 計量書誌学, マルチメディア, 抄録, レファレンスブック
G: 資料組織	蔵書構築, 目録作業, 収集・受入, 分類法
H: 情報システム管理	情報技術, 情報流通, 情報システム, 索引法, 抄録作成, データベース構築, 情報検索
I: 利用者・利用サービス	利用者・利用調査, 閲覧・貸出サービス, 複写サービス, 相互貸借, レファレンスサービス, 対象別サービス
J: 読書, 書評	読書心理, 読書指導, 読書調査, 書評
K: 書誌学, 書誌	書誌学
L: 出版流通	出版流通
その他	上記の分類が不可能なもの

図 1. 『医学図書館』 ページ数の推移

や編集デスク、書評などを含む、全ての記事を指している。創刊号から第 37 巻（1990 年）までの件数の推移に比べ、第 38 巻（1991 年）以降の記事の急激な増加には、目を見張るものがある、この増加は情報量の増加も考えられるが、編集方針の違いによるところが大きいと考えられる。

3. 論文数

図 3 は、『医学図書館』に掲載された全ての論

文数の、巻次推移を表したものである。41 年間で合計 685 件の論文が掲載されていた。「論文」の定義としては、文章に起承転結があり、何らかの考察をしているものとした。そのため、創刊から初期にかけては、論文の体裁を整えたものはほとんどなく、低い数字になっている。図 2 の「全記事」の推移と比較すると、第 11 巻（1964 年）以降は増減が緩やかである。このことから、ほぼ一定数以上の論文が、毎年発表されているといえ

図 2.『医学図書館』全記事数の推移

図 3.『医学図書館』掲載論文の推移

る。第15巻（1960年代半ば）に大きな件数を記録しているが、これは現在の論文よりも短い、特集による短編論文が多数を占めていたことが原因である。ここでは単に論文数のみを計算したため、このような値となっている。先の全記事数と同様、ここでも第37巻（1991年）以降の件数の増加が確認された。

4. 全記事の主題内容の分析

図4は、『医学図書館』に掲載された「全ての記事」が、主題別・年代別にどのくらいの割合を

占めてきたかを表したものである。横軸の左から、1巻から10巻（第Ⅰ期）、11巻から20巻（第Ⅱ期）、21巻から30巻（第Ⅲ期）、31巻から41巻（第Ⅳ期）というように、10年ごとに分けた年代で表している。ただし第Ⅳ期のみは11年間での値となっている。縦軸には先の13の分類項目が、Aからその他まで、下から順に続いている。そして、その13項目が各年代に占めた割合を、百分率で表示した。

第Ⅰ期からの全記事数は第Ⅰ期：1,064件－第Ⅱ期：954件－第Ⅲ期：700件－第Ⅳ期：1,567

図4. 全記事内容構成の変遷

件（以下、期数略で記す）である。第Ⅳ期は11年分の記事数であるが、他の時期に比べても、件数が著しく増加している。

ここで、それぞれの主題別に推移を追ってみる。

「A：図書館情報学」は20.6－19.3－25.3－29.0％と、年代を経るにつれて誌面に占める割合が増えている。これは最近の「広場」や「編集デスク」といったコーナーに掲載された、誌面についての読者や編集者の意見の掲載、JMLAのお知らせなどが充実していることによる。41年間全てを平均すると24.2％で、全体のおよそ1/4の記事量となっている。最も『医学図書館』の誌面を占めている分野である。日本医学図書館協会の機関誌という特性を考えると、予想どおりの結果であった。

「B：図書館・情報センター」は5.2－11.3－11.0－8.6％と、年代によってばらつきがある分野であった。平均では8.8％と、誌面の1割弱を占めている。この分野は主に医学図書館や病院図書室についての記事で占められているが、予想以上

に少ない割合であった。

「C：政策・行財政」は、1.6－2.6－2.0－1.2％と、全体的に少ない割合である。最近では、著作権関係の記事が目立った。平均して1.8％の記事が掲載されていた。

「D：管理」は13.4－17.1－7.7－4.2％と、年代を経るにつれて、大きく減少した分野の1つである。平均すると10.0％である。かつては人事異動に関する記事が多く、このような数字になっている。近年では人事異動に関する記事は少なくなり、図書館管理システムの記事が誌面を埋めている。

「E：建築」は4.4－2.8－2.0－1.2％と、ここでも減少傾向が現れた。平均は2.5％と、全体的に記事数の少ない分野である。第Ⅰ期と第Ⅱ期の頃には、新館建設のニュースや図書館紹介の記事が多く、このような数字になっている。毎号掲載されている加盟館紹介は、内容によって分類を付与したため、必ずしも「E：建築」や「B：図書館・情報センター」に分類していない。そのため、あまり大きな件数にはならなかった。

「F：メディア・資料」は8.7－11.4－15.6－13.7％で、平均で12.3％を占めている。2番目に割合の多い分野であった。この分野は件名が逐次刊行物・データベース・目録・索引・視聴覚資料・計量書誌学などと幅広いため、このような結果となった。

「G：資料組織」は1.2－9.2－7.7－3.8％と、年代によってかなりばらつきがある分野である。平均すると5.0％であった。受入れや目録作業など、実務的な内容の多い分野である。

「H：情報システム管理」は0.3－2.5－6.7－10.8と、年代を経るにつれて着実に割合が増えている分野であった。平均は5.8％である。これからの情報化社会では、情報システムやデータベース構築、インターネットといった、最も増加が予想される分野である。

「I：利用者・利用サービス」は3.4－9.4－7.0－7.1％で、平均は6.7％であった。古今を問わず、

相互貸借関係の記事が多い分野であった。

「J：読書・書評」は12.5－5.2－7.6－7.5%で平均は8.2%。ほぼ、安定した割合を保っている。この件数は、ほぼ書評の件数であり、読書についての記事はほとんどみられなかった。

「K：書誌学」は3.3－4.5－3.0－3.9%で平均3.7%で、これもほぼ一定の割合を保っている。

「L：出版流通」は0.7－0.2－0.9－1.4%で平均0.9%と、13の分類の中で最も少ない割合である。これは分類の方法が一因である。例えば41巻1号に掲載された「学術雑誌の電子的提供」などもこの分野に分類できるのだが、この場合は「F：メディア・資料」の全文データベースに分類したため、ここには含んでいない。1つの記事に複数の分類を付与していれば、もっと大きな値になっている分野であろう。

「その他」は24.7－4.3－3.6－7.7%と、最も年代によって大きく割合が変わった分野である。平均は10.5%であった。初期には時事的なニュースや受賞の記事等が多く、情報誌的な側面の強い誌面であった。回想録や医学会一覧、弔辞なども、ここに含んだ。

全体的にみて、分野によって年代別の増減には、かなりのばらつきが確認された。年代別の上位3分野は、

第Ⅰ期は「その他」－「A：図書館情報学」－「D：管理」

第Ⅱ期は、「A：図書館情報学」－「D：管理」－「F：メディア・資料」

第Ⅲ期は、「A：図書館情報学」－「F：メディア・資料」－「B：図書館・情報センター」

第Ⅳ期は、「A：図書館情報学」－「F：メディア・資料」－「H：情報システム管理」となっている。

41年間の合計では、「A：図書館情報学」－「F：メディア・資料」－「その他」－「D：管理」－「B：図書館・情報センター」となっていた。近

年注目されている、「H：情報システム管理」は、全体としては8番目の数値にとどまった。

5. 論文の主題内容の分析

図5は『医学図書館』に掲載された「論文」が、分野別・年代別にどのくらいの割合を占めてきたかを表したものである。論文のみを対象にすることによって、全記事とは違った角度から、医学図書館員の研究テーマの推移を知ることが目的とした。図4と同様横軸の左から、1巻から10巻（第Ⅰ期）、11巻から20巻（第Ⅱ期）、21巻から30巻（第Ⅲ期）、31巻から41巻（第Ⅳ期）というように、10年ごとに分けた年代で表している。縦軸には先の13の分類が、その年代に占めた割合を百分率で示した。

第Ⅰ期からの論文数は16－255－178－226件である。第Ⅱ期は先にも述べたように、特集による短編論文が多数掲載されていたため、このような件数になった。また第Ⅰ期は件数が少なく、分母が小さいため、多少極端な結果が出ている。

ここで先程と同様に、それぞれの主題別に推移を追ってみた。

「A：図書館情報学」は全記事の24.2%に比べると、かなり割合が少なくなっている。第Ⅰ期からの推移は12.5－6.3－9.0－7.5%となり、平均して7.4%にとどまっている。例えば本論文は、『医学図書館』誌を調査対象としているのでここを含むこともできるのだが、計量書誌学は、「F：メディア・資料」に分類したため、「A：図書館情報学」としては計数していない。

「B：図書館・情報センター」も、Aと同様である。0－5.5－8.3－7.5%となり、平均では6.7%である。「A：図書館情報学」と「B：図書館・情報センター」は、記事にしやすい分野ではあるが、論文になりにくい分野であるといえる。

「C：政策・行財政」も、0－2.4－1.1－0%と全体的に少ない。平均では1.2%である。

図5. 論文内容構成の変遷

「D：管理」は18.8－14.9－7.9－11.9％となっている。平均すると12.0％である。近年の論文では、図書館管理システムの論文が増えてきている。

「E：建築」は18.8－5.1－3.4－1.8％と、全体的に低い数字の分野である。平均は3.8％であった。第Ⅰ期で18.8％と高い数字になってはいるが、件数としては3件のみにとどまっている。

「F：メディア・資料」は25.0－19.2－26.4－26.5％で、平均で23.4％を占めており、最も割合の多い分野であった。全記事数の平均では12.3％であったので、値がおよそ倍増している。先にも述べたが、この分野には計量書誌学などの件数が多いので、このような結果になった。

「G：資料組織」は12.5－18.0－22.5－8.4％と、年代によってかなりばらつきがある分野である。第Ⅳ期の大きな減少が目立った。平均して15.6％である。

「H：情報システム管理」は0－5.9－11.2－19.5と、年代を経るにつれて着実に割合が増えている分野であった。平均は11.5％。第Ⅳ期での

割合はまだ19.5％であるが、全記事での結果同様、これからの増加が予想される分野である。

「I：利用者・利用サービス」は6.3－22.0－11.2－15.9％で、平均は16.5％であった。もっとも安定した数字を残している分野である。

「J：読書、書評」は論文としては1件も掲載されていなかった。42巻1号で「読書療法」の論文が掲載されているが、調査対象は41巻4号までとしていたため、今回の調査では算出できなかった。

「K：書誌学」は6.3－0－2.2－0で、平均0.7％であった。これもあまり論文にはなりにくい分野であるといえる。

「L：出版流通」も0－0.4－2.2－0％で平均0.7％と、低い数字である。

「その他」は0－0.4－0.6－0.4％、平均でも0.4％と、最も少ない数字であった。『医学図書館』に相応しくない内容の論文は、あまり掲載されていなかった。

年代別の上位3分野は、第Ⅰ期は「F：メディア・資料」－「D：管理」と「E：建築」が同率。第Ⅱ期は、「I：利用者・利用サービス」－「F：メディア・資料」－「G：資料組織」。第Ⅲ期は、「F：メディア・資料」－「G：資料組織」－「H：情報システム管理」と「I：利用者・利用サービス」が同率。第Ⅳ期は、「F：メディア・資料」－「H：情報システム管理」－「I：利用者・利用サービス」となっている。

41年間の合計では、「F：メディア・資料」－「I：利用者・利用サービス」－「G：資料組織」－

全記事ベスト5	論文ベスト5
図書館情報学	メディア・資料
メディア・資料	利用者・利用サービス
その他	資料組織
管理	管理
図書館・情報センター	情報システム管理

「D：管理」－「H：情報システム管理」となっていた。

論文のみの結果では、先の中記事の結果とはかなり違い、特定分野の論文が多いことがわかる。

IV. ま と め

今回の調査の結果、以下の点が明らかになった。

①『医学図書館』誌のページ数はここ数年増加しており、それに比例して記事数と論文数も増加している。今回の調査で、医学図書館をめぐる情報量が、近年特に増加していることがわかった。

②記事に比べて、論文はテーマ分野に偏りがあった。時代を反映した内容や、注目を浴びている分野を追うことは、当然である。しかし論文のテーマになっていない分野が多く、もっと「マイナー分野にも目を向ける」必要がある。

③中記事と論文の両方とも、「情報システム」分野の情報量が、近年増加していることがわかった。これからの情報化社会を先取りしている結果であろう。

第34巻から第40巻までの『医学図書館』の執筆者の分析結果⁴⁾より、主に関東圏内の私立大学に所属する執筆者に依存している傾向が指摘されている。近年には書き手の分散が進んできていることにより、記事の数が増加しているので、記事の分野にも幅が出てくるのではないかと。

今回の調査により『医学図書館』誌に掲載された記事・論文の、研究対象分野の経時的な流れをつかむことができた。しかし何度も記したように、「F：メディア・資料」の分野には、主な件名だけでも図書、逐次刊行物、データベース、視聴覚資料、書誌、目録、索引、計量書誌学などがある。個々の件名がどのような経時的な増減を示しているかという点までは、調査できたとはいえない。また今回は、『医学図書館』誌のみを調査対象と

している。はたして『医学図書館』誌での調査結果が、他の図書館関連雑誌に比べてどのような特徴を示しているのだろうか。これも同様の調査結果がないために、ここで判断することはできない。

今回の調査を踏まえて、以降考えられる調査としては、

- ・今回の分野別から、件名による主題別の調査を実施する。
- ・『医学図書館』誌以外の雑誌についても調査を試みる。
- ・経時的に調査を継続する。

などが考えられる。これらを通して、医学図書館員を取り巻く情報を、経時的かつ網羅的に分析していきたいと考えている。

今回の調査を行うにあたって、『医学図書館』の全ての12,056ページを繰った。42年前の創刊号は、すでに誌面に劣化が生じていた。また、知っている方々の論文をみつけるたびに、目を留めた。自分の人生よりもずっと長い、42年間の『医学図書館』誌の歴史の重みを感じた。

本稿は、1995年7月1日、2日の両日にわたって長崎大学医学部で行われた、第12回医学情報サービス研究大会における発表に、加筆したものである。

参考文献

- 1) 城山泰彦. 情報化学文献数の計量的分析. 医学図書館 1994 ; 41(1) : 104－8.
- 2) 殿崎正明. 雑誌「医学図書館」に発表された記事の展望. 医学図書館 1973 ; 20(2) : 123－33.
- 3) 飯島正裕. '80年代日米医学図書館員の研究動向－「医学図書館」及び“Bulletin of Medical Library Association”の掲載論文を比較して. 医学図書館 1990 ; 37(4) : 250－61.
- 4) 青木 仕. 医学図書館誌における執筆者の分析. 医学図書館 1995 ; 42(1) : 69－72.
- 5) 上田修一, 三輪真木子, 中山和彦. 図書館学, 情報学の基礎文献. Library and Information Science 1983 ; 1－17.